



清流化向けゴシゴシ

一関・大東 砂鉄川で石磨き大会

一関市大東町大原字岩脇地内の砂鉄川で5日、恒例の石磨き大会(下野自治会主催)が開かれた。日本大生物資源科学部(神奈川県藤沢市)と連携して取り組んでいるイベントで、地元の子供たちや同大の学生ら地区内外から集まった人たちが、川底の石を磨きながら環境保全の重要性を再認識していた。

石磨き大会は、同自治会が同年度の河野英一教授の指導で1994年から砂鉄川で川底の石を磨く子供たち

ら毎年開催。参加者が特製の古縄たわしを使って川底にある石を磨くことで、石に付いた有機物を流し、清流化に向けた意識付けを図っている。

19回目を迎えた今回は、地元住民や同大の学生のほか、6日まで町内で自然体験を行っている千葉日大第一中学校(千葉県船橋市)の3年生も

加わり、合わせて約120人が参加した。晴天の下、はだしになって砂鉄川の中に入った参加者は、水の冷たさに歓声を上げながら、約300区間の川底の石を磨き上げていた。千葉日大一中の具志堅愛里さんは「川がとてもきれいなのでびっくり。地域の人たちの長年の取り組みの成果だと思う。私たちも

これを機に、環境を大切にしていきたい」と語っていた。

このほか、水生生物の生息調査や、流れをせき止めて放流した約120匹のイワナのつかみ取りも実施。同自治会の勝部欣一会長は「われわれの取り組みはささやかだが、地道な活動によって、少しずつ環境保全の意識付けが図られている。他の地域から学生や生徒が参加してくれているので、今後も継続していきたい」と語っていた。

同自治会は、石磨き大会などの清流化活動が認められ、これまで第30回全国豊かな海づくり大会の環境大臣特別賞などさまざまな賞を受賞している。